

教室で気づくいじめのサイン

子供たちが、1日の中で最も長い時間を過ごす学校は、いじめの存在を窺わせるサインも見つけやすい場所である。教師は、「この程度のことはよくあること」と見過ごさず、少しでも「おかしいな」と思うサインに気付いたらアクションを起こさなくてはならない。

【こんなサインはいじめの兆候～学校編から】

<授業中>

- ・成績が急に下がった子供がいる
- ・子供たちから特定の子供の名前が挙がる回数が増えた（主に授業中）
- ・特定の子供が発言すると、教室内に意味ありげな笑いが起こる
- ・クラスの中で、特定の子供を避けるような動きが見受けられる
- ・特定の子供が、一人で遅れて教室に入ってくるが増えた
- ・グループ分けの際、特定の子供がいつもハズされる
- ・給食の時、特定の子供のおかずが無理に盛られたりする
- ・子供たちの提出物（日記、作文、テスト用紙）に気になる記述が見られる
- ・特定の子供の教科書やノートに落書きをされている

<休み時間>

- ・休み時間になると、子供たちが特定の子を囲むように集まる
- ・遊び時間に、特定の子供だけがオニの役をやらされている
- ・遊び時間に、特定の子供だけがいつも格闘遊びの相手をさせられている
- ・特定の子供に対して、侮蔑的な言葉が集中して向けられるようになった（例：ウザイ、クサイ、死ね、バカ、消えろ、失せろ）
- ・特定の子供が、休み時間になる度に保健室や職員室にやってくる
- ・特定の子供が、休み時間になると一人でぼつんとしている
- ・特定の子供の表情が、おどおどしていたり、うつむいていることが多い。
- ・特定の子供の顔に、泣いた形跡が見て取れる

<登下校・放課後>

- ・下校の際、特定の子供が他の子供の分まで荷物を持たされている
- ・特定の子供が部活を休みがちになる
- ・特定の子供の持ち物が隠される

【いじめの兆候に気づいたら】

他のサインが見られないか、さらに注意深く観察する。「これはやはり」と思われるサインが見つかったら、個別に呼び出して面談を行う。この際、いじめの存在を無理に突き止めようとせず、「ちょっと気になっているんだけど」と切り出し、教師側が子供たちを心配していること、あくまでも中立な立場で見守っていることを告げる。

その時点では子供は何も語らないことも考えられるが、「何かあったら相談に乗るよ」と安心感を与えるとともに、気になっていることは必ず他の教師にも伝えて、他の教師にも注意して観察してもらうよう連携を図ることが大切である。

参考：森田洋司・清水賢二 『新訂版 いじめ 教室の病』 金子書房 1994

菅野純・桂川泰典 『いじめ 予防と対応 Q&A』 明治図書 2012